

平成23年度 富士見小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

心豊かで健やかな体を持ち、創造性豊かに自ら学び、自ら考え主体的に判断し、行動し、よりよい社会の発展を目指して、たくましく生きる児童の育成を目指す。

- 1 心豊かで、思いやりのある子ども(心豊かな子)
- 2 よく学び、工夫する子ども(よく学ぶ子)
- 3 健康で、たくましい子ども(たくましい子)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育基本法、学校教育法、学習指導要領並びに、本県の教育振興の基本理念や、本市の学校教育推進計画及び学校教育スタンダードに基づき、児童の実態や地域の特性を踏まえ、人間尊重の教育を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、学校教育の理念を

- ・ 学ぶことが楽しく、生き生きと活力に満ちた学校
- ・ 明るく、あいさつの響き合う潤いのある学校
- ・ 家庭や地域と手をつなぎ、ともに歩む学校

と定め、全職員が和と協力体制のもと総力を結集して学校経営にあたる。

3 学校経営の方針（中期的視点）

教育目標の達成を目指し、歴史と伝統、よき校風を基盤とし、学校は子どものためにあることを前提に、21世紀をたくましく生きる子どもの育成に努めるために、次の方針により学校経営にあたる。

- 1 楽しい学校づくり
- 2 学習指導の充実
- 3 健康・体力の保持・増進
- 4 豊かな心の育成
- 5 児童指導の充実
- 6 教職員の資質の向上
- 7 家庭・地域・幼保・企業との連携強化

4 今年度の重点目標（短期的視点）

（学校運営）

家庭・地域・企業等の学校支援ボランティアの協力を得、地域の特色を生かした教育活動の推進

（児童生徒指導）

相手の気持ちを考え、正しく判断し行動できる児童の育成

（健康・体力）

運動に親しみ、自ら進んで自分の健康・体力の向上に励む児童の育成 ～教科体育及び健康の増進や体育的行事の工夫～

（学習指導）

豊かな心で共に生きる子どもを育む道德教育 ～人とのかかわりを大切にし、多様な考えが生きる道德の授業を目指して～

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の【全】は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
----	------	----------	-----	----

教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」⇒それぞれの肯定的回答85%以上	①学校行事等において、児童が主体的に活動する場を多く設定し、活気あふれる学校づくりをする。 ②授業では、学習意欲を高める多様な体験的学習の工夫をする。	【達成状況】 - それぞれの肯定的回答は、児童92.8%、保護者91.0%、教職員及び地域住民は100%と良好である。市全体と比較してもほぼ同じであった。 - 児童が主体的に活動する行事（音楽集会・ゆうゆうコンサート）や児童会活動（1年生と遊ぼう・チャレンジランキング・なかよし集会）等を実施した。 11月にはオープンスクールとして、学校の教育活動を広く地域に公開した。 B - 全学年において、学年に応じ、街の先生や地域ボランティアに協力を得て、体験を通して学ぶ授業を展開した。 【次年度の方針】 - 保護者の評価は昨年度より肯定的回答が伸びている。小学校全体をわずかに劣るが、学校に来る機会が少ないことから判断されたものと思われる。 - より一層、学校の様子を広く周知いただくために、学校での行事や体験的学習の様子などを学校だよりや学年だより、HP等で知らせようとする。
	A2 教職員は、組織の一員として誠実に熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「教職員は協力し、教えるべきことをしっかりと熱心に指導している」⇒保護者の肯定的回答80%以上	①それぞれの子どものよさを認め励まし、指導すべきことはしっかり指導する。 ②教育相談や個人懇談等を計画的に実施し、個に応じた支援に努める。	【達成状況】 - 保護者の肯定的回答は、83.8%と良好であるが、地域住民は57.1%と厳しい評価を受けた。 - 児童との教育相談を年2回（6月・11月）に位置づけ、一人一人の児童と話す機会を設けた。また、保護者との個人懇談も年2回（7月・12月）に実施し、教育相談での児童の様子を保護者と話し合い、連携を図った。 B - 児童のよさや指導経過等を、学年または学校全体で共有し、継続的に指導にあたった。 「まごころカード」に友達のよさを記入し、学級内に掲示し、他のよさを認める心が育つようにしてきた。 【次年度の方針】 - 保護者や地域の方々に学校に来ていただく機会を増やし、教職員の様子を見ていただくとともに、教師もより一層の研鑽に努めるようにする。

A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒保護者の肯定的回答80%以上	①「みんなのやくそく」による日常指導の充実と教師による生活当番活動を実施すると共に、保護者との連携・協力を図る。 ②道徳教育の充実を図り、全校での道徳の公開授業を実施する。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は86.0%、地域住民の肯定的回答が100%でともに良好である。 【次年度の方針】 ・「みんなのやくそく」の共通理解を図り、児童指導の徹底を図った。 ・生活当番が週目標の徹底を図るため、業間・昼休みなど校内を巡回し指導してきた。 ・児童の問題行動があったときは、チームで対応し、迅速に問題解決にあたった。 ・宇小教研道徳の公開を目指して学校課題として道徳教育の充実に気を配り、7月の教育連絡日（授業参観）では、全クラスで道徳の授業を公開した。
A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」⇒児童の肯定的回答80%以上	①教材開発・課題提示の工夫など、一人一人の実態に応じた指導により分かる授業を行う。 ②3年生以上の国語・算数でT・Tや少人数指導など、学習形態の工夫を図り、個に応じた指導を行う。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92.3%で、良好であるが、保護者の肯定的回答は72.2%と市全体とほぼ同じで、厳しい評価であった。 ・学年や学級の児童の実態に応じて、分かりやすい授業となるよう、教材を開発したり課題を明確にさせたり等の実践をしてきた。また、算数・国語科における少人数指導、T・Tの指導により、個に応じた授業の実践に努めてきた。 ・学習内容定着度調査の結果は、どの学年も市の平均を上回った。 ・配慮を要する児童については、個別に対応するかがやきルーム等も活用し効果が上がった。 【次年度の方針】 ・教職員が先進校や研究校を積極的に訪問したり、工夫した校内研修を行ったりして、授業力の向上を図る。
A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答80%以上	①学習状況調査やアンケート等の児童の実態から、各教科・各種年間計画を見直し、自校化を図る。 ②学校評価・学校行事アンケート等により、児童や保護者の願いを生かした、よりよい学校行事・学年行事・学習活動を実施する。	【達成状況】 ・肯定的回答は保護者が88.9%と、高評価を得ている。 ・教職員への学校行事ごとの反省やアンケート、保護者のアンケート結果を見て、児童や保護者の願いを加味した年間行事を組み込んだ。 【次年度の方針】 ・保護者や地域住民のアンケートを参考にしながら、次年度の教育課程をバランスよく編成する。

学校運営の状況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答80%以上 A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 各学年、地域や企業と連携した教育活動を年3回以上実施している。	①オープンスクールなど機会をとらえて、地域の方にも学校を公開する。 ②学校だより・学年だより・保健だより・食育だよりを毎月発行する。学校だよりは地域にも回覧し、学校の取り組みを地域にも知らせる。 ①企業や大学との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。 ②地域探検や農業体験等地域教材や地域の人材、街の先生を活用した授業を計画的・継続的に実施する。 ③近隣の県立博物館・市立図書館・文化会館・宇都宮城等の文化施設を積極的に授業に活用する。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は89.9%であり、オープンスクールや教育連絡日（授業参観）への参加率も高い。 ・各種たよりは、毎月保護者に配布したり地域にも回覧したりして、学校の取組や活動の様子を知らせた。 ・保健だより、食育だより、給食献立表を毎月保護者に配布した。学校としての取り組みだけでなく、家庭でも実践して欲しいことなど内容を工夫したので、家庭での健康に対する意識も高まっている。 【次年度の方針】 ・行事ばかりでなく、児童中心の集会や音楽集会、ゆうゆうコンサートなども保護者や地域の方に知らせ、参観する機会を設け今年度同様学校の活動の様子をさらに公開していきたい。 ・健康に関する児童の実態や保護者のニーズを把握した上で、各種たよりの内容を充実させる。 【達成状況】 ・保護者が85.0%、地域住民の肯定的回答が100%と高評価を得られた。これは、英語、書道、珠算、箏・尺八、昔遊びやもち焼き体験などで、多くのボランティアの協力・支援をしていただきながら、体験的な学習が進められた結果である。 ・全学年とも地域や企業と連携した教育活動を3回以上実施できた。 ・学区内にある県立博物館や文化会館及び周辺施設を積極的に活用できた。 【次年度の方針】 ・保護者、地域、企業等との連携を図った授業を継続していく。 ・地域協議会のコーディネーターと連絡を取り合い新たな地域人材の募集、授業で活用できる地域の素材の開発に努める。
---------	---	---	--

A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である」⇒保護者の肯定的回答80%以上	①縦割り班での清掃指導の充実を図ると共に、草花栽培等校内緑化を推進し、よりよい環境づくりをする。 ②日常的に校内巡視を行うと共に、定期的な安全点検を実施し、安全な学習環境づくりをする。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は77.2%と前年度に比較してやや下がってきた。 ・縦割り班での清掃や委員会活動での校内緑化活動で潤いのある環境づくりが推進できた。 ・保護者の奉仕活動や地域ボランティアによる農園の管理も行われ充実してきた。 ・施設の管理も計画的に行われ、日常点検で問題箇所が見つかり、修理・改善がすぐに行われた。 【次年度の方針】 ・清掃での縦割り活動は継続していくが、学年集会等で清掃の仕方等の指導に努める。 ・花壇や農園、草花の管理は、今後とも計画的・継続的に実施していく。 ・定期的な点検を計画的に行うとともに、日常の点検を重視し、迅速な対応をするようにして安全な環境づくりに努める。
A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員が互いに指導力の向上に取り組む、指導の工夫・改善に努めている」⇒教職員の肯定的回答90%以上	①人権教育・特別支援教育・児童指導等の校内研修を計画的・継続的に実施する。 ②学校課題に基づいた授業研究会を実施し、教材研究を深め、教職員一人一人の授業力の向上を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%と高かったが、保護者は66.7%と大きな差が見られた。 ・校内研修は、学校課題研修（道徳）を中心に、その他の研修も計画的に実施した。 【次年度の方針】 ・校内研修の場で、児童に分かりやすく楽しい授業ができるよう教材や展開等の工夫に努める。 ・オープンスクールや教育連絡日の授業の中で、保護者にも指導の工夫などを伝える。
B1 学校・保護者・地域が一体となって、読書活動の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 1か月に20冊以上読書する児童が80%以上	①週2回、クラスごとに落ち着いた雰囲気朝の読書を行う。 ②図書委員や保護者・地域ボランティアによる読み聞かせを全学級、月1回実施する。 ③地域団体による素語りや読み聞かせを月1回学年ごとに実施する。 ④各学年オープンスペースに読書コーナーを設置し、休み時間等に身近に読書に親しめる場所を作る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は61.1%と低い結果になった。保護者は92%、地域住民は100%と良好な結果になっている。 ・朝の読書、読み聞かせ、お話会等計画的に実施し、読書活動には力を入れてきた。 【次年度の方針】 ・朝の読書や週一回の図書室の効果的な活用を図る。 ・昼のお話会や下野民話の会による素語りなどでのボランティアの計画的な活用と充実を図り、児童の関心を高める。 ・図書室や読書コーナーの図書の選定等に児童の意見も取り入れ、図書の充実を図る。

教育活動の状況	生	A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「児童はあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答８０％以上	①全クラス児童・委員会児童・教職員が週３回輪番制で中央広場に立ち、あいさつ運動の充実を図る。あいさつ運動の様子をたより等で周知し、家庭にも協力を呼びかける。 ②日常の言葉遣いや敬語の使い方等の指導を全職員共通理解のもと継続的に行う。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は、あいさつが８１．３％、言葉づかいが７８．０％と高いが、保護者はあいさつが４８．７％、言葉づかいが５５．９％、地域住民のあいさつは９２．８％と高いが言葉づかいは５７．１％と低い評価になっている。 - あいさつ運動等を通して、児童の意識の向上を図ってきたため、昨年度よりよくなっている。 【次年度の方針】 - 学校全体であいさつが児童から進んでできるように、あいさつ運動のさらなる充実を図っていく。 - 家庭と連携してあいさつ運動の充実を図っていく。 - 言葉遣いは、日頃から機会をとらえて指導をしていく。
	活	B2 交通ルールを守って安全に登下校している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、登校班で登校し、集団で安全に注意しながら、下校している」⇒児童の肯定的回答８０％以上 【数値指標】 保護者の登下校指導への参加率８０％以上	①登下校指導を地域・保護者・教職員が一体となって実施する。週２回は集団下校を実施する。 ②交通安全教室や防犯教室を警察スクールサポーター、スクールガードチーフ等の協力を得て計画的・継続的に実施する。	【達成状況】 - 児童・教職員・地域の肯定的回答は９０％以上で高いが、保護者の肯定的回答は７４．５％と低かった。 【次年度の方針】 - 月曜と金曜に教職員が下校時に同行指導するようにして、しばらくは取組を継続して、児童の下校の様子を見るようにしていくが、問題が起きたときにはすぐに対応するようにした。 - 各学年で実施している防犯教室は、スクールサポーターとガードリーダーにお願いしてきていたが、マンネリ化してきているので、次年度は警備会社に依頼するように計画している。
		B3 いじめや不登校がない明るい学級で生き生きと過ごしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、友達と仲良く助け合いながら、楽しく学校生活を送っている」⇒児童の肯定的回答８０％以上 【数値指標】 まごころカード各クラス各学期１００枚以上 【数値指標】 いじめ解消率１００％	①全教職員の協力のもと、どの子ども居場所が確保できる学級経営に努める。 ②縦割り班活動を充実させ、毎日の清掃活動をはじめ、なかよし集会やチャレンジランキングなどの活動を通して異学年の交流を図る。 ③「まごころカード」の実践を通して、豊かな心を育てる小さな親切運動の推進を図る。 ④Ｑ－Ｕ検査やいじめアンケート・教育相談の実施により、早期発見・早期対応に努める。	【達成状況】 - 教職員、保護者、児童の肯定的回答は９０％を超えているが、地域住民が７８．５％と昨年よりはよくなっているが低かった。 【次年度の方針】 - 今年度の取組を継続して、充実させる方向で進めていく。学校便り等での地域への情報公開も考えている。

A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「毎日朝ごはんを食べ、好き嫌がなく食事をしている」⇒保護者の肯定的回答８０％以上 B4 運動に親しみ、健康な体づくりをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、検定カードなどにより、目当てを持って運動に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答８０％以上 健康・体力	①「早寝・早起き・朝ごはん」が実行できるように、学校栄養職員による「食に関する授業」を実施したり、保護者会等で家庭の協力を要請したりする。 ②親子給食を実施して、楽しく会食しながら、好き嫌がなく食べられるようにする。 ①検定カード（水泳・縄跳び・持久走・鉄棒）を活用し、目標を持って積極的に運動を実施し、体力増強への意欲を高める。 ②日課を工夫し、業間・昼休みの時間を確保し、外での自由遊びを奨励する。 ③養護教諭による肥満傾向の児童への健康教室を実施する。 ④うつのみや元気っ子プランに基づき、全員がミニマムプランを達成できるよう体力の向上に努める。 B	【達成状況】 ・栄養職員により授業や親子給食・食育だより等により、保護者や児童の食に関する関心が高まっている。しかし、給食での実態を見ると、まだまだ偏食が多い。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続し、家庭とともに協力して、児童自身が自分の健康や成長に必要なバランスのよい食事を取れるよう意識化を図りたい。 【達成状況】 ・運動に関しては、全てにおいて肯定的回答が高く、外遊びを中心によく運動していることが明らかになった。 ・各種検定カードが効果的に活用され、それを励みに自主的に運動する姿が多くなった。 ・肥満傾向の児童は、養護教諭の働きかけにより、家庭の協力が得られ、改善率が上がっている。 【次年度の方針】 ・各種検定や宇都宮のミニマムプランの目的や実施経過を家庭に連絡することで、家庭においても体力向上への意識を高めていきたい。 ・学年便り等で体力向上の取組について知らせる。（マラソンチャレンジ・ドッジボール大会など）
A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答８０％以上 学習	①一人一人が自由に発言できるような学習集団作りに努める。 ②学習活動の中で、小集団での話し合いの場を設定し、発言しやすい環境を作り、コミュニケーション力を育成する。 B	【達成状況】 ・肯定的回答は、児童が８２．５％、教職員・地域住民ともに約８５％と高いが、保護者は７５．６％と開きが見られた。 【次年度の方針】 ・①②ともに児童の発達段階に応じた取組を継続していく。・話し合い活動を意図的に取り入れることで、自分の思いを伝える大切さや思いが伝わったときの喜びを味わわせるように努める 【達成状況】 ・児童・教職員の肯定的回答は８０％を越えている。また、保護者は６５％、地域は６４％と大きな差が見られた。 ・朝の学習テスト８０点以上の児童は、約８

	B5 自ら進んで学習に取り組む態度が身に付き、基礎学力が向上している。 【数値指標】 朝の学習で漢字と計算練習を週1回ずつ確実に実施する。 【数値指標】 全体アンケート「家庭学習を毎日、決められた時間実施している」⇒児童の肯定的回答80%以上	①朝の学習として、漢字や計算の繰り返し学習を週1回実施する。 ②各学年の発達段階に応じて「家庭学習のしおり」を家庭に配布し、保護者の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。	0%以上で昨年度よりも高くなってきている。 ・3年生以上は少人数・習熟度別学習を取り入れて、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を実施しているところである。個人差はあるが、少しずつ基礎学力は身につけてきている。 ・高学年を中心に「自主（家庭）学習のしおり」を配布し、保護者の協力を得ながら、学習習慣の定着を図ったが、個人差が見られる。 【次年度の方針】 ・学年ごとに宿題の内容や分量についてさらに検討し家庭との連絡を密にして家庭学習の習慣化を図る。 ・朝の学習を計画的に実施し、基礎学力の向上を目指す。
本校の特色・課題等	B6 自国の文化を知り、他国の文化や言語を楽しみながら学んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「国際理解の体験活動や英語活動が楽しい」⇒児童の肯定的回答80%以上	①地域人材の協力を得て、自国や他国の文化にふれる体験的学習を実施する。 ②ALTや英語ボランティアと共に教材を開発しながら、学年に応じた英語活動を推進する。 ③様々な人々にふれる機会を増やし、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は81.3%で数値目標は達成できたといえる。教職員も100%と高かったが、保護者は66.2%と低かった。どのようなことをやっているか、まだ十分に保護者に伝えられないことが原因であると考えられる。 ・ALT先生や英語ボランティアとの連携が図られ、充実した英語活動ができた。 【次年度の方針】 ・英語ボランティア・ALTと協力しながら、各学年の英語活動の一層の充実を図る。 ・授業参観・オープンスクール等で英語活動の様子を公開し、保護者に英語活動の実態を伝える。 ・活動の様子を学年便り、学校便り、HP等で保護者に伝える。

〔総合的な評価〕

1 教育全体の状況 ・全体アンケートでは、おおむね良好な結果を得られている。 ・92%の児童が楽しく学校生活を送っている。また、保護者や地域住民の90%以上も学校が明るく活気があるとよい評価を得ている。 ・教職員は分かりやすい授業を目指して取り組んでいるが、保護者の願いに十分には答えてはいないところもある。教材研究を充実させ指導方法の工夫改善を図り、指導力の向上に取り組んでいく必要がある。少人数指導や個別の学習など児童一人一人に応じたきめ細かな指導をさらに充実させていかなければならない。 ・今年度の道徳の研究を生かして、心豊かな児童の育成を目指し児童を充実させていく。 2 学校運営の状況 ・全体アンケートでは、良好な結果が得られている。

- ・ 本校は地域人材、周辺の施設に恵まれており、体験的な学習活動が多く取り入れることができています。
- ・ 学校便りやHP等で学校の情報を広く公開し、保護者や地域との連携をさらに深めていきたい。
- ・ 学校はゆとりのある施設で清掃や緑化活動により、潤いのある環境となっている。

3 教育活動の状況

① 生活

- ・ 全体アンケートでは、「あいさつ」「言葉遣い」が低い評価であるが、前年度よりはよくなっている。「あいさつ」「言葉遣い」は礼儀の基本となることである。学校・家庭・保護者が一体となって取り組む必要がある。
- ・ 登下校時の児童の安全は、保護者・地域の協力により守られている。問題等が起きた場合はすぐに指導ができるように、保護者や地域から情報にも対応していきたい。

② 健康・体力

- ・ 全体アンケートでは、どの指標においても、良好な結果が得られている。
- ・ 好き嫌いなく食べるについては、保護者と教職員、児童に意識の差が見られた。今後とも給食指導及び家庭への啓発に努めていく。
- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の実践ができるよう引き続き家庭とも協力していく。
- ・ 運動は、外遊びを奨励するとともに、目標をもって運動に取り組めるような検定カード等の工夫を図る。

③ 学習

- ・ 児童の評価は良好であるが、保護者からの評価は十分なものとなっていない。基本的な学習態度を身に付け、基礎・基本の定着に重点をおいた指導を進めるとともに、発表や話し合い活動が深められるように言語活動の場面を意識的に設定して、指導の強化を図りたい。
- ・ 家庭と連携を図り、学年に応じた家庭学習の時間が確保できるよう課題を考えるとともに、家庭の協力を得て家庭学習の習慣化を身に付けさせたい。

4 本校の特色

① 国際理解教育

- ・ 全体アンケートでは児童は肯定的回答が86.3%と高かったが、保護者や地域住民の評価は低かった。
- ・ 英語活動は、地域ボランティアやALTが計画的・継続的に協力が得られ、充実した活動となった。児童も英語に抵抗なく取り組み楽しい学習活動ができた。また、今年度の研究の課題として取り上げ研修を深めたので、教員の指導力向上につながった。

② 親学

- ・ 親子で体験する活動は授業ばかりでなく、親子料理教室や親子工作等を行った。保護者の関心が高く参加者は多かった。

6 学校関係者評価（地域の方）

- ・ 学校の外でのあいさつは、十分できているとは言えない。家庭教育とのかかわりが大きい。（親の態度に影響される）
- ・ 本校児童の言葉遣いは、比較的よくできている。
- ・ 親子のふれあいの場を確保していくことは大切である。（例えば、食事の時の団欒）
- ・ 毎月の教師の登校指導があるときの児童の登校の態度はよくなる。
- ・ 先生がいるときにきちんとできるのは、児童に先生の指導が行き届いているととらえられるのではない。
- ・ 学習内容定着度の結果から、本校は国・算の全てにおいて市の平均を上回っている。
- ・ 先生の言うことをきちんと理解して、素直に頑張れる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・ 「あいさつ」「言葉遣い」については、学校では、時と場に応じたあいさつやことばの遣い方、安全な歩行の仕方等を検討し、工夫を重ねながら繰り返し指導していく。家庭教育力の向上を図る「親学」を実施したり、地域との連携・協力を十分に得られるような取り組みを工夫したりしていく。
- ・ 本校の児童が生き生きと明るく学校生活を送っていることが、学校関係者の方々にはご理解いただけた。しかし、まだ、保護者・地域に学校の情報が十分伝わっているとはいえない面もあるので、学校公開の機会を増やしたり、学校だよりを地域回覧したり、地域と連携した行事を実施したりするなど、積極的な情報発信・提供をしていく。
- ・ 学習（会話科・生活科など）や読書活動については、地域の方々のボランティアなどの協力を得ながら、さらに学習環境を整え、子どもたちの基礎学力の定着と豊かな心の育成に努める。また、教職員研修をさらに深め、教師の指導力の向上を目指す。